



# 日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 145

平成20年10月25日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimu@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

## 医学会協議会ご案内

下記の通り平成20年度第1回医学会協議会を開催いたしますので、関係の先生方はご出席下さいませようお願い申し上げます。

日時：平成20年11月30日（日）午後0時30分～3時30分

会場：日耳鼻医学会事務所

第1部 講演 午後0時30分～1時30分

「安全保障としての医療」 - 日本医療の危機

講師 井田病院内科 鈴木 厚 先生

第2部 協議会 午後1時30分～3時30分

議題：報告事項 鳥取フォーラム、東京フォーラム他

- 協議事項
1. 各医学会の活動状況について
  2. 老人（65歳以上）の難聴について
  3. レセプトオンライン化について 他

協議会終了後ホテルモンテ銀座にて懇親会を行います。

## 疑義解釈資料(その5)より

厚労省は10月15日付けで地方厚生（支）局等宛てに疑義解釈資料のその5を送付致した。これは、平成20年度診療報酬改定にともなう診療報酬点数の算定方法に関して、Q&A形式でまとめたもので、耳鼻科に関するものは以下の通り。

【初・再診料】(問1) A001再診療の注6に規定する外来管理加算について、小児や認知症患者等、本人から症状を聴取することが困難な場合であって、付き添いの家族等から症状を聞いて診療を行った場合に算定できるのか。

(答) 小児や認知症患者等の本人から問診を行うことが困難な場合において、家族等から症状を聞いて本人に対して診察を行い、家族等に対して懇切丁寧な説明を行った場合には、外来管理加算を算定できる。この場合、家族等に問診や説明を行っている時間も「医師が直接診察を行っている時間」に含めるものとする。

## 「学校のアレルギー性疾患に対する取り組みガイドライン」冊子 小中学校に配布

日本学校保健会は上記冊子を作製、全国の小中学校に配布した。それによると食物アレルギーの児童生徒は全国で33万人、アナフィラキシーショックを起こした児童生徒は18000人であった。また学校給食が原因でアレルギー症状を起こした事例は637例、うち生命を脅かす可能性のあるアナフィラキシーショックを起こした事例は約50例であった。食物アレルギーは他に文献によっても、スギ花粉症患者の7.4～16.5%に交差反応性にトマト、メロン、スイカ、キウイ、モモ、リンゴなどの果物でアレルギー反応を起こし、またラテックスアレルギー（生ゴム）は40%にバナナ、アボガド、クリ、キウイでアレルギー反応を起こすことも報告されている。学校ではその場に居合わせた教職員に対処策としてエピペンの使用も検討しているが、これは講習を受けた教職員でないと出来ないようで、まだ対応は出来ていないようである。

## 手術中やけどの患者死亡

電気メスがチューブに引火 千葉県国保松戸市立病院で10日に行われた気管切開の手術中にチューブが燃え、気管や顔に火傷を負った男性患者(76)が15日朝、死亡したと病院が発表。

## レセプトオンライン請求の完全義務化撤廃を求める共同声明発表

10月22日三師会

10月22日、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会はレセプトオンライン請求義務化の撤廃を求める共同声明を発表した。声明文は以下の通り。

地域医療崩壊の根本的要因は、長年にわたる医療費の抑制にある。われわれ医療を担う者には、国民が安心して医療を受けられるようにする責務がある。しかし、医療の質の向上と安全性を確保するための医療現場の努力はすでに限界にあり、医療従事者の疲弊は極みに達している。地域医療が危機的状況にあるなか、国は効率化の名のもと一方的に医療費の削減を押しつける目的で、レセプトオンライン請求の完全義務化を強引に推進しようとしている。本来、医療におけるITの活用は、医療の質の向上、医療の安全に資するものでなくてはならない。ところが国は、これらに鑑みることなくレセプト請求を例外なくオンラインに限定し、医療機関等に新たな投資と負担を強いようとしている。この施策は、ITを活用することで国民や医療現場により良い医療や環境を提供しようとするものではなく、強引に行う必然性はまったくない。このままレセプトオンライン請求の完全義務化が進められれば、地域に根ざして医療を担ってきた医療機関等を撤退に追い込み、地域医療崩壊に拍車をかけることは明らかである。事実、日本医師会が行った調査によれば、医科では8.6%もの医療機関がこのままでは廃院するしかないと回答している。この危機感は、歯科、調剤も例外ではない。これらのことから、三師会として以下声明する。

- 一、レセプトオンライン請求の完全義務化を撤廃すること
- 一、レセプトオンライン請求は医療機関等の自主性に委ねること

以上

平成20年10月

日本医師会 会長 唐澤 祥人  
日本歯科医師会 会長 大久保 満男  
日本薬剤師会 会長 児玉 孝

プロスタグランジンD<sub>2</sub>・トロンボキサンA<sub>2</sub>受容体拮抗剤  
アレルギー性鼻炎治療剤



ラマトロバン錠

Baynas® 薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）  
効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

販売（資料請求先：学術部）  
日本新薬株式会社  
〒601-8550 京都市南区吉野橋西/庄門口町14  
http://www.nippon-shinyaku.co.jp

製造販売元  
バイエル薬品株式会社  
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001  
http://www.bayer.co.jp/byl  
(2008年8月作成)

病院によると、男性は急性呼吸不全で別の病院から転院、10日午前の気管切開の手術中に人工呼吸器と肺をつなぐための約30cmのチューブを別のチューブに交換する際、気管挿入しようと電気メスでのどを切開中にチューブに引火。すぐに消しとめたが、数十秒間燃え続け、チューブの約半分は溶けてなくなっていたという。千葉県警は業務上過失致死容疑で遺体の状況を調べるとともに、病院側から事情を聴いている。

記事：共同通信社 提供：共同通信社